

“定年 28 号” 愛知から東北へ (2)

中野 明

2011 年 5 月、水道施設の応急的な復旧のための岡崎市(愛知県)からの応援は 2 か月ほどで終わりました。一方、東北各地で一般市民によるボランティア活動が盛んに行われるようになっていました。私もすぐにでも行きたかったものの、仕事があるのでままならず、定年まで 1 年残っているのがもどかしかったものです。岡崎市でも社会福祉協議会が主催して、市民ボランティアを募集し東北へ送り出していました。バス車中泊を含む 5 日間の行程で、現地作業は実質 3 日でした。5 月から 9 月の第 4 次まで行われ、私も参加の条件となる研修は受けましたが、結局、仕事のからみから日程が合わず参加できませんでした。

役所では、10 月を過ぎると次の年度の人事が具体的に検討されるようになります。本格的な復興に向けて被災地自治体では大幅に職員が不足しており、翌年の人事が固まる前の 11 月に、自治省を通じ、多くの被災自治体から、翌平成 24(2012)年度の職員派遣要請が岡崎市にも届きました。仕事内容は様々ですが、区画整理事業や上下水道の復旧など、土木技師の私に關係する仕事もたくさんありました。

定年退職したら、東北へボランティアに行こうと思っていましたが、自分の経験が東北の復興に役立てるならそんなにいいことはないので、是非行きたいと思いました。翌 3 月末で定年退職となりますが、65 歳までは再任用職員という制度があるので、岡崎市役所の希望者募集に応募しました。しかし、人事からはあっさり却下されました。理由は、岡崎市では再任用職員は週 4 日勤務で原則残業を認めていないので、勤務条件が派遣先の要望に答えられないし、年寄りよりも若い人を望んでいるというものでした。結局、岡崎市からは、平成 24(2012)年 4 月から宮城県の亘理町に区画整理に精通した土木技師が 3 人、隣の山元町に事務職員が 1 人派遣されることになりました。

私は、2012 年 3 月末で、36 年間勤めた岡崎市役所を定年退職しました。65 歳になるまでは再任用の道が開かれています。定年したらやりたいと思っていたことがたくさんありましたので、カミさんを拝み倒して 2 年間自由な時間をもらいました。

4 月になり自由な身となったので、さっそく東北へ行くことにしましたが、東北といってもあまりに広くどこへ行くかが問題でした。インターネットで調べると、被災地のボランティアセンターのホームページなどに、ボランティア募集状況が載っていました。震災後 1 年が経ち、多くのボランティアセンターで、がれき処理などの単純肉体労働的なボランティアは、募集を終了していました。まだ続いているところでも、土日だけというように活動を縮小しているところが少なくありません。

東北へ行ってもボランティアができるかどうかわかりませんでした。できなくても被災の現地をこ

の目で見なかったので、東北観光だけで終わったとしても、それはそれで良いと思いました。そんな中で、宮城県の岩沼市でボランティア入門講座の参加者を募集しているのを見つけました。現地のことは良く分かりませんが、とりあえずこの講座に参加することにしました。

実は震災前から退職したら車で全国を回りたいなと思っていました。最近では道の駅がどこへいってもあるので、車中泊も随分便利にできるようです。車は、もともと車中泊もできるように買ったワンボックスタイプのホンダの「S-MX」です。車にナビが付いていないので、後付けのナビを買いました。寝袋はホームセンターで買った安物がありましたが、不安なので登山用品店に行ってオールシーズンのしっかりしたものを買いました。また、手芸店で布を買ってきて、カーテン代わりに洗濯ばさみで留められるようにしました。

ボランティア保険にも入って準備万端、2012年4月17日の朝、自宅のある岡崎を出発しました。岩沼市のボランティア講座は4月20日なので時間は十分あります。急ぐ旅ではないので、高速道路を使わずに地道を走りはじめました。その日は、できれば会津若松までいきたいと思っていましたが、思っていた以上に時間がかかっています。長野県の途中で、これじゃダメだと思い高速に乗りました。しかし、会津は予想以上に遠く、東北自動車道を走っていて、夜8時を過ぎたところで走行を断念し、栃木県の上河内SAで一泊しました。初めての車中泊でしたが、一日中運転して疲れていたのでしょう、意外とよく眠れました。

翌4月18日は、朝6時半にラジオ体操をしました。家ではずっと、6時25分からテレビ体操をしていたのですが、代わりにラジオ体操をすることにしました。気恥ずかしいので、サービスエリアの隅にある小公園に携帯ラジオを持って行って、人目をさけるように体操しました。パンとコーヒーで朝食をとり、8時ごろ会津若松に向けて出発しました。

いうまでもなく会津若松は明治維新の激動にもまれた町で、その象徴となる鶴ヶ城にはぜひ行きたいと思っていました。ちょうど桜が見ごろで、城内では翌2013年に放映されるNHK大河ドラマ「八重の桜」にちなみ新島八重をたたえるコーナーが特設され、紙芝居も行われていました。

その後は、山越えて福島市に向かい途中で暗くなってしまったので、土湯温泉の近くにある公共施設の「四季の里」の駐車場で一泊しました。

翌4月19日は、津波の被害をこの目で見るために海を目指しました。途中でトイレ行くために公園によったら、施設は閉鎖されていて、土木作業員が側溝のコンクリートの表面を削っていました。工事看板には除染作業とあり、公園施設も除染後に再開されると書かれていました。ここにきて、ああ、「フクシマ」に近づいているんだなと思いました。やがて海に出ました。たぶん相馬港あたりだと思います。木造家屋はすっかり失われており、鉄骨の施設は壁が破壊され、骨組みと破れた屋根が無残な姿をさらしていました。港では壊れた施設の復旧工事が進められていました。

原発事故により、そこから南は行けないので、北に向かいました。できるだけ海岸線を走るつもりでカーナビを設定しましたが、壊れたり、沈んだり、工事中などで走れない道路が多く、そのたびに迂回しました。ほとんど指示を無視することになり、カーナビは再計算の連続で悪いことをしました

が、しっかりと位置を示してくれましたので、大いに助かりました。

北上して宮城県山元町に入りました。JR常磐線坂元駅は海岸線近くにあり、ホームと鉄筋コンクリートのトイレを残して、周辺全部がすっかり無くなり荒涼としていて、そこに立っただけで嘔寒くなりました。

さらに北上を続け、松島まで行きました。せっかく東北に来たのだから、ボランティアもさることながら、日本三景に数えられる松島は見ておきたいと思いました。松島周辺はそれほど被害が大きくなかったようですが、遊覧船はまだ復活していません。松島公園の前方に浮かぶ福浦島へ渡りましたが、その橋もまだ工事中でした。その後は、再び南に戻り、名取市にあるスーパー銭湯「極楽の湯」で疲れを落としました。ここは深夜まで営業しているので、ぎりぎりまで休息所で休んで、その後は駐車場の隅で一泊しました。

4月20日朝、明るくなってきたところで、駐車場を出て隣の岩沼市に向かいました。大型スーパー、ホームセンター、100円ショップの集まっているショッピングエリアがあり、そこで買い出ししながら、並びにあるコインランドリーで洗濯をしました。

午後は、岩沼市のボランティアセンターが主催する「ボランティア入門講座」に参加しました。参加者は40名ほどで、講師は広島からやってきた女性です。テーマは「ふれあいを深める傾聴」で、仮設住宅などの独居老人のケアは、なにかしてあげるといふ気持ちではなく、黙って話を聞くことが大事であること、一度ではこころを開くことは期待しないで、辛抱強くなんども顔を出してすこずつ信頼を得ていくことが大事であることなど、豊富な経験に基づいた貴重な話を聞きました。

講座終了後、ボランティアセンター事務局の人に、がれき処理などのボランティアのことを聞いたから、明日21日土曜日に、泥だしのボランティアがあるというので、参加させてもらうことにして、岩沼市のボランティア登録をしました。ついでにボランティアの車中泊の場所として、岩沼市文化会館駐車場を教えてもらいました。近くには救急病院にもなっている大きな病院があり、24時間出入り自由なうえ、シャワートイレがついているので助かりました。

4月21日、朝8時に岩沼市のボランティアセンターに行きました。参加者は10人ほどで、半分は近くの人ですが、横浜や栃木から来ている人もいました。倉庫から、スコップ、一輪車、レーキなどの道具をトラックに積み込んで、3台の車に分乗して現地に向かいました。着いたのは一般の民家で、鉄筋コンクリートの2階家なので建物は残っていましたが、がれきは殆ど片づけられていません。聞くと、一人暮らしのご主人が入院していて、ボランティアも頼めずそのままになっていた。と、入口で待っていた兄弟らしい人が言っていました。

家の中や庭にあるがれきを、一般ごみ、木材、コンクリート、金属など大雑把に仕分けして、敷地の隅に設けられた置き場に運びました。私は庭のがれき処理を担当しましたが、他の家から流れてきたらしい位牌もありました。がれきとして処分するわけにはいけないので、きれいに洗って縁側の隅においておきました。

現地の作業は9時ごろから始まり、リーダーの掛け声で1時間に10分ほど休憩しました。お

昼休みは 12 時から 1 時までで、コンビニで買ったおにぎりとソーセージを食べました。3 時過ぎに現地での作業を終え、ボランティアセンターに戻りました。ボランティアセンターでは、泥で汚れた道具を水で洗い、倉庫の定位置に戻し、4 時過ぎに解散となりました。次の土曜日にもボランティア活動があるということで申し込んで、宿泊地の駐車場に戻りました。

(次号に続く)

(なかの あきら:愛知県岡崎市再任用職員。2012 年 3 月に 36 年間勤めた岡崎市役所を定年退職、2013 年 4 月より宮城県亘理町に派遣。現在、亘理町上下水道課で下水道事業に従事。)